

授業科目 保健医療ソーシャルワーク論

【担当教員名】 河野 聖夫	対象学年	3	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎		

【概要・一般目標：GI0】
 生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題を捉え、「わずらい」や「生活障害」への理解を得る。
 保健医療福祉の現場から見える生活問題の特徴を考察し、
 クライアントの自立や社会復帰の支援を目指した保健医療ソーシャルワークの理念や意義、理論と方法を学ぶ。
 保健医療福祉の諸制度にも触れながら、専門職の連携、チームワークの方法と実際を学ぶ。

【学習目標・行動目標：SBO】
 1) 受療者・患者・家族の置かれる社会的現状を知り、様々な生じる生活問題の諸相を考える。
 2) 保健医療ソーシャルワークの基礎知識・理論を理解する。
 3) 保健医療分野におけるソーシャルワークの実践（業務や展開過程、他職種との連携など）について理解する。
 4) 医療ソーシャルワーカーの実践事例を通じて、社会的存在意義や役割、連携の方法について考察する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション ～保健医療ソーシャルワークとは～		シラバス プリント
2	保健医療福祉の現状と社会の変化に伴う歴史的な経過		参考図書紹介、資料配布
3	生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題		資料配布 時事
4	保健医療分野におけるソーシャルワークの役割と意義		倫理綱領 業務指針
5	保健医療機関の組織と専門職		参考図書紹介、資料配布
6	医療ソーシャルワーカーの歴史と専門性		参考図書紹介、資料配布
7	保健医療ソーシャルワークの実践過程		参考図書紹介、資料配布
8	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践		実践事例の考察 急性期医療
9	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践		実践事例の考察 リハビリテーション医療
10	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 専門医療分野でのソーシャルワーク
11	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 療養介護とソーシャルワーク
12	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 地域医療 地域包括ケアと医療ソーシャルワーカー
13	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの意義		参考図書紹介、資料配布
14	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの視点と方法		実践事例の考察
15	まとめ		考察課題への取り組み

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	新訂 保健医療ソーシャルワーク原論	(社) 日本医療社会事業協会編	相川書房	
	改訂 保健医療ソーシャルワーク実践	日本社会福祉士会 ほか	中央法規	
	1、2、3			
その他の資料	必要に応じてプリントを配布する。			

【評価方法】 リアクションペーパー、授業内小レポート、定期試験（50%程度）により総合的に判断する。	【履修上の留意点】 毎回の授業では、事例や現場の話題を積み重ねながら説明や考察を進めていくので、各回のつながりが重要となります。 欠席するとそのつながりから分からなくなることが出てくるので、あらかじめ承知しておいて欲しい。 相談援助実習において病院での実習を予定する場合には、事前学習に欠かせない内容なので履修すること。
---	---